

日本ソフトバレーボール連盟



2013年度版
SOFTVOLLEYBALL Rule

Q & A 集

目 次

1. ルール解釈について
 - (1) ボールの空気圧
 - (2) ボールへの接触
 - (3) 副審の吹笛
 - (4) ボール判定

2. サービスに関して
 - (1) サービス時のアウトオブポジション

3. プレー上の反則につて
 - (1) タッチネット
 - (2) ネットへのボール接触

4. ブロックに関して
 - (1) 同時接触
 - (2) ブロック後のボール接触
 - (3) ブロックアウトの判定

5. アタックに関して
 - (1) アタックとブロック
 - (2) アタックヒット
 - (3) レシーブミス

6. 要望について
 - (1) 審判員資格
 - (2) チーム登録

競技規則Q&A集 (ルール解釈に関して)

質 問	回 答・解 説	ルールブック 記載
<p>使用するボールの空気圧はどの様に決めれば(セッティングすれば)よろしいでしょうか。</p>	<p>【回答】ソフトバレーのボールの規定には、空気圧の項目はありません。大会使用時には、メーカー作製のゲージを用いてボールの円周を測定しています。</p> <p>【解説】規定されているのは、「ボールは、ゴム製で、重さ210±10g、円周78±1cmの公益財団法人日本バレーボール協会検定のソフトバレーボールを使用する。なお色については規定していない」となっています。</p>	I-2
<p>ルールブックの「ボールへの接触」項の(注解)①でチームの第一回目打球の時、ボールが身体の2か所以上に連続して当たってもよい。ただし、その接触はひとつの動作中のものに限られるとあります。第一回目の打球がたとえば顔→肩や 顔→腕と2か所に当たったボールを別の人がつかないでもいいのですか？</p> <p>②また「2か所以上」とありますが、顔→肩→腕と3か所に当たってもいいということですか？</p>	<p>【回答】①の場合、1回と数えます。②の場合、反則にはなりません。</p> <p>【解説】ルールブックで『チームの第一回目打球のとき、ボールが身体の2箇所以上に連続して当たってもよい。ただし、その接触は、一つの動作中のものに限られる(2ボールの接触(注解))となっています。ドリブルの反則にしないというルールです。擬音で説明すると、サービスされたボールをアンダーでレシーブしたところ、ボールが腕と胸に連続して当たり、“バ・バン”と音がした場合などです。</p> <p style="padding-left: 20px;">ボールが腕と胸に間断的(時間差がある)に当たり“バン”“バン”と音がした場合は、ドリブルの反則です。</p> <p>「連続」と「間断」の違いです。②3箇所の接触ですが、これもルールブックでは『一つの動作中のものに限られる』とありますので、時間差がなければドリブルの反則にはなりません。</p>	V-2- 注解
<p>主審の吹笛について、副審が基本的に吹笛するファウルに、主審がはっきりと認識した場合(パッシングザセンターライン、タッチネット、レシーブ時のポジション等々)⇒主審が吹笛してもよいのでしょうか？</p>	<p>【回答】副審の吹笛に関しては、ルールブックに明確に規定されています(付則 I 審判員とその主な責務)。サービス時のレシービング・チームのポジション(アウトオブポジション)の反則は副審が吹笛します。主審は吹笛できません。</p> <p>【解説】主審は、サービス時にはサーバーおよびサービング・チームのポジションに関する反則を判定しなければならず、レシービング・チームのポジションの反則の有無は確認できないので判定しないということです。しかし相手側コートへの侵入(パッシングザセンターライン)、タッチネット、に関しては、副審だけでなく、主審も確認できますので判定して吹笛しなければなりません。</p>	付則 I

競技規則Q&A集 (ルール解釈に関して)

質 問	回 答・解 説	ルールブック 記載
<p>イン・アウトはボールがコートに接触する時にボールが床に最初に接した点で判定するとのことでした。私は今までイン・アウトの判定は、ボールのフロアとの接触面がラインに接していれば、イン、接していなければ、アウトという認識でした。</p> <p>先日の全国審判長会議ではイン・アウトの判定は、ボールの最初の接触点での判定と指導を受けました。</p> <p>ルールブック(2011年度)の文言は、 (1)ボール・イン ボールがコート区画線を含むコート内に接触したとき、そのボールはインとなる。 (2)ボール・アウト ボールがコート区画線の完全な外側の床に落下するか、コート外の物体に触れたとき、となっています。 (1)の接触とは、ボールが床に落下する場合、初めは点で接触し、打たれた強さによってつぶれて面積は変わりますが、面で接触し、バウンドして床から離れます。 この間が床との接触とすればイン、接触しなければアウトではないでしょうか？ 今までの解説と大変な違いがあると思いますが、いかがでしょうか？</p>	<p>【回答】ライン際でのボールインとボールアウトの判定についての条文は、2012年度も2011年度と同じです。 判定の基準もご理解のとおりです。</p> <p style="padding-left: 20px;">ラインを含むコートにボールが接触していれば「ボールイン」です。</p> <p>【解説】全国審判長研修会にて講師の吉村氏が述べているところも同じ意味です。ソフトバレーボールのボールは、6、9人制と比べて大きくて柔らかいのが特徴です。従って、強打されたボールがコートに接触すれば最初の接触点が生じることは当然です。判定の基準は、「ラインを含むコートにボールが接触しているかどうか」です。ライン際の判定は、主審の位置から判定するよりも、ラインジャッジ(線審)の位置からボールとラインの関係を注視するほうがよりの確に判定できます。ボールインの場合、ラインジャッジは、ボールがラインに接触(点の集合としての面)したその瞬間にフラッグシグナルを出します。主審は、ボールが床に接触した瞬間に笛を吹きます。主審とラインジャッジとのアイコンタクトの後、主審はハンドシグナルにてポイント側のサイドを示し、ボールインのハンドシグナルを出します。詳細に述べさせて頂ければ、『「接触」とはその瞬間の「最初の接点」を含めた「最初の接面」のこと』となります。従って、時間差をおいての床上でボールが転がった「接面」は判定基準には入りません。人間の目で接触のその瞬間を見極めることは難しいところですが、ラインジャッジは適切な判定ポジショニングをとり、接触のその瞬間にフラッグで判定を示して頂きたいものです。</p> <p>ちなみに、ライン際の判定では勢いのあるボールだけを注視するよりも、ボールがライン際に向かってくる途中から目の焦点をラインに注視させ、ボールは視野内で捕えるようにするとラインとの接触状態がよく見えます。 一度試してみてください。</p>	V-5

競技規則Q&A集（サービスに関して）

質 問	回 答・解 説	ルールブック 記載
<p>サービス時のアウトオブポジションについてルールブックには「サービスが打たれた瞬間に、サーバーをのぞき 両チームの各競技者がコートの外に出ていたり…」と記述されています。次の場合は、アウトオブポジションでしょうか？</p> <p>片方の足は、完全にコート内で、もう一方の足が</p> <p>①ライン(サイドラインまたはエンドライン)を踏んでいる場合(ラインの外側にははみ出していない)</p> <p>②足の真ん中でラインを踏んでいて、かかとはラインの外側、つま先はラインの内側にあるような場合</p> <p>③つま先はラインにかかっているが、その他はライン外側</p>	<p>【回答】①反則ではありません。②反則です。③反則です。</p> <p>【解説】条文には次のように記述されています。</p> <p style="padding-left: 20px;">「サーバーを除く両チームの競技者は、サーブが打たれる瞬間には コート内に位置していなければならない。」</p> <p style="padding-left: 20px;">「コート」とは、40mmの幅のラインも含まれています。</p> <p style="padding-left: 20px;">従って、①身体(シューズなど)がラインに触れているだけでしたら、コート内ということになりますので、反則ではありません。次に、②足の真ん中でラインを踏んでいる場合です。ラインの外側、ラインの内側という表現がよく理解できないのですが、身体(シューズ)がラインに触れていて身体の一部(シューズのかかとなど)がコート外の床に触れている場合は反則になります。③「ラインにかかっている」という表現を、「身体(シューズの爪先など)はラインに触れずにラインの上方空間にある」と解釈する場合、それ以外の身体の一部(シューズなど)がライン外側の床に触れている場合は反則です。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、片足がコート内にあり、もう一方がコート外空間に出ている場合は反則ではありません。</p>	<p>Ⅲ-4-</p> <p>(1)</p>

競技規則Q&A集（プレー上の反則）

質 問	回 答・解 説	ルールブック 記載
<p>①ネットの支柱に身体が接触及び手で掴んだ場合は、タッチネットになりますか。</p> <p>②アンテナに触れた場合もタッチネットではないのでしょうか、よろしくお願ひします。</p>	<p>【回答】 ①の場合、タッチネットの反則にはなりません。</p> <p style="padding-left: 2em;">②タッチネットの反則です。</p> <p>【解説】 ①タッチネットの反則となる場合は、左右の支柱間のネットの部分に、競技者がインプレー中に触れた場合です支柱については、ネットを支柱に巻き込んで設置する場合がありますが、支柱に巻き込んだネットは支柱の一部となるのでネットではありません。従って、インプレー中にこの支柱に競技者が触れてもタッチネットの反則にはなりません。</p> <p style="padding-left: 2em;">②インプレー中に競技者がアンテナに触れた場合、タッチネットの反則となります。</p>	<p>V-6-注 解①</p> <p>V-6- (10)</p>
<p>3回目に触れたボールがネットに当たり、相手側に返らず床に落ちた場合のハンドシグナルを教えてください。</p>	<p>【回答】 ゲームの3回目の打球がネットに当たって、そのボールが相手側に返らず床に落ちた場合には2つのケースが挙げられます。</p> <p style="padding-left: 2em;">①ボールがコート内に落ちれば「ボールイン」ハンドシグナルは「ボールイン」を示します。</p> <p style="padding-left: 2em;">②ボールがコート外に落ちれば「ボールアウト」バドシグナルは「ボールアウト」を示します。</p>	<p>V-5- (1)、 (2)</p>

競技規則Q&A集 (ブロックに関して)

質 問	回 答・解 説	ルールブック 記載
<p>自陣からのボールがネット上端で同時に触れた時、ブロック側のコート外に落ちればブロックアウトとしてましたが、これは間違えなのでしょうか？</p>	<p>【回答】 ネット上で両チームの競技者が同時にボールに接触した後、ボールがコート外に落下した場合は、落ちた側の勝ちとなります。</p> <p>【解説】 この場合、落ちた側の反対側のチームの競技者が最後までボールに触れていたと解釈します。ブロック側とかアタック側とか、それぞれのフォームで判定することではありません。ハンド・シグナルは「ボールアウト」となります。</p>	<p>V-2-(6)</p>
<p>ブロックに当たったボールがその後体(頭等)にあたった場合、ブロックとみなされる範囲を教えてください。①一瞬に当たった場合も可となるのか。②また、ボールが当たった体の一部が白帯より上にあった場合は時間に関係なく 可なのか教えてください。</p>	<p>【回答】①ブロックの一連の接触で「バ・バン」と当たった場合は、一つの動作中のものですからブロックとみなします。「バン・バン」と時間差があつて当たった場合、最初のバンがブロックで、2回目のバンは、ブロック後の第1回目の接触となります。</p> <p>②ボールが当たった位置(白帯の上下)に関係ありません。最初の質問に対する回答と同じように、一連の接触でしたらブロックとなります。</p> <p>【解説】ブロックの定義を十分把握して下さい。さらに、時間差があつて、同じブロッカーが再度ボールに接触すれば、ブロック後の第1回目の接触になります。同じブロッカーがボールに接触することは許されていますので、引き続きプレーできます。</p>	<p>V-2-(2) V-4-(3)</p>
<p>Q&Aの中でブロックアウトの判定について、ブロックのフォームでなく、同時接触であるかどうかと回答されておりますが、ソフトバレーボールのルールと審判法(大修館書店2007年11月)P123に、タイミングに差はないが、ブロックが静止していて、アタックのはじき出す行為によって…と書かれております。ブロックが静止している場合はアタックに有利なのでしょう。ソフトバレーボールの場合同時に接触させてブロックアウトを狙うパターンが多く、また当連盟の大会では、はじき出すというより押し出すような行為も目立って来ております。はじき出すような行為の場合でも、同時接触でブロックが静止しておれば、やはりアタック側の勝ちになるのでしょうか？</p>	<p>【回答】同時接触についての判定基準を明確にしましょう。ボールへの接触に関する条文は次の通りです。『ボールは、打たれなければならない。つかんだり、投げたはならない』(V-2 ボールへの接触)。つまり、ネットを挟んだ競技者が、ボールに同時に接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあつたときは、両者ともホールディングの反則でありダブルファウルとなります。ダブルファウルがなく「同時に」触れたボールがコート外に落下した場合は、落ちた側の勝ちとなります。</p> <p>【解説】なお、『ソフトバレーボールのルールと審判法(大修館書店発行)』は、個人の著作であり、公益財団法人日本バレーボール協会が監修しているものではありません。また、日本ソフトバレーボール連盟も関与しておりません。従いまして、この著作の内容を参考にすることはあつても、この著作の内容を日本ソフトバレーボール連盟が競技規則のガイドラインとして根拠にすることはない、ということを示し添えさせていただきます。</p>	<p>V-2-(5)、 (6)</p>

競技規則 Q & A 集 (アタックに関して)

質 問	回 答 ・ 解 説	ルールブック 記載
<p>主審の判断です。アタックを打ったボールがネットの白帯とブロッカーの手に同時に当たり自陣コートに帰ってきました。</p> <p>オーバータイムになるのでしょうか？</p> <p>ボールが白帯を越えていなければオーバータイムというのは理解できますが白帯を越えたかどうか微妙な時は判断に困ります。そのまま流していたら、相手チームからネット越しに当たったからオーバータイムだと主張されます。</p> <p>また、そのボールがボールデッドになった場合は、さらに判断に困ります。何か良い判断方法はないでしょうか？</p>	<p>【回答】 反則でなく、ラリーの継続になります。</p> <p>【解説】 スパイクされたボールが白帯と相手ブロッカーに同時に触れた＝ブロック成立でラリーを継続する。</p> <p>ボールが白帯に当たり、白帯が押され相手ブロッカーに触れたのか、白帯とブロッカーに同時に触れたのか見極める必要があります。</p> <p>主審は、アタッカー、ボール、ネット上端及びブロッカーを視野に入れて、目を動かさずに頭1つ分やや攻撃側からネット上端付近に目線を置くと良く見えます。</p> <p>オーバーネットの見方も同様です。</p> <p>判定は、事実に基づいて判定します。選手のアップールで判定がぶれないようにしてください。</p> <p>人間は全ての「真実」を見れるわけではありません。主審は自分の目で見た「事実」を副審や線審の協力を得て最終判定を行います。</p>	V-2
<p>「サービスとブロックを除き、全ての返球動作はアタックヒットとみなされる」ことから、ネット上端より低い位置からのサービス球を返打球した場合は、反則ですか？</p>	<p>【回答】 反則ではありません。</p> <p>【解説】 相手側がサービスしたボールを、ネット上端より完全に高い位置からアタックヒットして、それが完了したときが「アタックヒットの反則」です。</p>	V-6-(5)
<p>サービス球をレシーブミスで、ネット上端より低い位置から返球した場合は反則ですか？</p>	<p>【回答】 反則ではありません。</p> <p>【解説】 意図的であれ、非意図的(レシーブミス)であれ、ネット上端より完全に高い位置からの返球でなければ、反則ではありません。</p>	V-6-(5)

競技規則 Q & A 集（要望に関して）

質 問	回 答 ・ 解 説	ルールブック 記載
<p>ソフトバレーボールの審判員にはどのような資格があり、どうすれば取得できるのでしょうか。</p>	<p>【回答】 ソフトバレーボールの審判員に関する資格は、公益財団法人(以下(公財))日本バレーボール協会公認(マスター)リーダー資格の中に含まれています。資格を取得するには、(公財)日本バレーボール協会が主催、各都道府県ソフトバレーボール連盟が主管で開催するソフトバレーボールリーダー養成講習会で取得できます。</p> <p>【解説】 (マスター)リーダー資格は、競技運営・初心者指導・審判活動・クラブ(チーム)運営に携わる能力を有している証明になる総合的な資格です。ソフトバレーボール審判員だけに限る単独の資格はありません。講習会に関する詳細は、各都道府県ソフトバレーボール連盟にお問い合わせ下さい。</p>	
<p>ミックスに出場している男性選手が、レディースの監督として、同大会に出場できますか？</p>	<p>【回答】 同一交流大会においては、1人の競技者(監督)が2つのチームに属して出場することはできません。</p> <p>【解説】 日本ソフトバレーボール連盟では、次のように登録規程を設けています。</p> <p>第9条第1項: 加盟チームの競技会参加は1加盟チームにつき1種目とする。ただし、その大会要項により認められているときはこの限りではない。</p> <p>第2項: 複数チームに登録している者は、1つの競技会には1チームに限り参加できる。</p>	